

第2回 石油コンビナート災害対応への先進技術活用検討会 【議事要旨】

1 日時

令和3年2月1日（月）14：00～15：30

2 会議方式

WEB会議

3 出席者

別紙参照

4 配布資料

資料1 石油コンビナート防災体制の現状（令和3年2月）

別添1 大容量泡放射システムの配備状況（12区域）

別添2 ドラゴンハイパー・コマンドユニットの概要

別添3 ドラゴンハイパー・コマンドユニットの配備状況（12消防本部）

別添4 スクラムフォース

別添5 自衛防災組織等の防災要員のための標準的なテキスト（第8章及び第9章）

資料2 石油コンビナート災害対応への先進技術の導入検討箇所（案）

別添1 令和元年度 先進技術を活用した石油コンビナート災害対応に関する検討会（抜粋）

5 内容

(1) 座長代理指名

座長代理に、消防庁消防大学校消防研究センター・細川直史委員が選出

(2) 議事

ア 議事（1）「第1回検討会資料『防災体制の整理』とりまとめ内容の報告」について

資料1（資料1別添1～5を含む）に基づき事務局から説明

イ 議事（2）「先進技術導入箇所の検討」について

資料2（資料2別添1を含む）に基づき事務局から説明

ウ その他

（ア）資料2「石油コンビナート災害対応への先進技術の導入検討箇所」の作成について

事務局から各検討委員に対して、資料2の作成を依頼。

また、本資料について、第3回検討会の議事となる旨を周知。

（イ）第3回検討会の日程等について

次のとおり予定している旨を周知

●令和3年3月8日（月）14時00分開始

●会議方式については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて検討

(3) 主な意見及び質疑（座長：Ⓐ 委員：Ⓑ 事務局：Ⓒ）

ア 議事（１）について

特になし

イ 議事（２）について

㊦：各委員の皆様には、石油コンビナート災害対応に係る先進技術について検討いただき、その意見を資料２にまとめていただきたい。具体的な作業としては、「新技術」「効率化」「既存代替」「その他」に分類の上、その内容、見込まれる効果、導入に向けた課題等の記載となる。なお、資料内にすでに例示を記載している（※事務局から、資料２記載の「大容量泡放射システムの機能統合装置」や「消防ドローンによる災害現場における状況把握」等を例として、記載方法を説明。）。第３回検討会では、皆様から頂いた意見を事務局でとりまとめの上発表させていただく。

㊧：資料２に記載されている例示について確認させていただきたい。

例示は、「大容量泡放射システムの機能統合装置」のように、すでに開発されている技術として、すぐにでも実現可能な項目が列挙されている、という認識でよろしいか。

㊨：実現可能性の高い項目や、技術的な問題を含め実現可能性が不確定な項目が含まれている。

今後、とりまとめた意見に対して、実現可能性を含めた評価をしていただきたいと考えているため、実現可能性の大小に関わらず意見を頂きたい。

㊩：所感であるが、本検討会については、先進技術の導入によって、誰（どの機関）にどのようなメリットがあるかなどを明確化しておくことが重要であり、そのことが先進技術の普及につながると思う。

例えば、（石油コンビナート等災害防止法施行令第７条第６項で規定されている）「省力化に資する装置又は機械器具」のように、それを備えている特定事業所にとっては、防災要員の減員という享受をもたらしている。

つまり、規制対象、規制内容、享受するメリットがはっきりとしていなければ先進技術の導入が進まないのではないか。

㊪：その点（メリットの享受者、内容等）も含めて評価をしていきたいと考えている。

人員省力化といった事業所の要望や、ベンダーによる新技術の提案など、幅広い意見を募り、事務局で整理を行う。

㊫：本資料をとりまとめる上では、検討する先進技術の目的を定め、見込まれる効果や導入に当たった課題を明確化しておくことが重要と考える。具体的な検討に当たっては、災害抑止、早期情報収集、人員省力化、経費削減等についてバランスを図っていく必要がある。

また、事務局が資料２を整理しやすいように、あらかじめ資料内に委員が記載する際のポイントを記しておくと思う。

㊬：見込まれる効果や導入に当たった課題が明確になっていなければ、最終的な到達点がぶれてしまうおそれがあるため、それらを整理の上、検討を進めていく。

※委員の意見（後段）を反映し、資料２について、資料内にポイントを記載の上各委員に作成依頼を行った。

委：事業者側としては、安全性の維持を前提の下、人員やコストの負荷を軽減したい。

今後は、保安担当人員の減少など人員配置が難しくなることが予想されるため、例えば、3点セット（大型高所放水車、大型化学者、泡原液搬送車）といった防災資機材等に備える人員についての減員ができれば、メリットに感じると思う。

委：人員が不足している昨今、AIやIoTを駆使することで、人員不足をカバーし、更なる安全活動に繋がればと感じている。

座：本日の検討会では、事業者側としては人員の削減に伴うメリットを意識していると感じた。

今後、各委員には、事務局から資料2の記載についてお願いするとのことであるが、それぞれの立場からの意見提出に御協力いただきたい。

委：資料2の作成に関して補足させていただきたい。

例示として、既存の防災体制の代替案を列挙させていただいたが、その代替案の能力評価（代替案が既存の防災体制と同等の効果を有するかを検証する評価）が課題になる。そのため、特に事業者側の方には、現行の防災体制において実施している活動や業務について具体的に記入いただき、併せて、既存の防災体制に置き換えることができる意見やアイデア、またはすでに工夫している方法があれば、積極的に記入いただきたい。

それらの意見を基に、事務局で深掘りし資料をとりまとめる予定である。

以 上